

泉坊書院

この建物には、かつて男山の石清水八幡宮寺にあった泉坊という寺の客殿の玄関、主室、次の間が組み込まれています。伝承によると、玄関は元々、豊臣秀吉（1537-1598）によって建てられた伏見城の一部であり、彼の桐の紋章は今もその門に見られます。主室と次の間は、17世紀初頭の壮大な装飾と古典的な建築様式を保持しています。

1868年、政府が神道と仏教の分離を命じたとき、すべての仏教関連の建物が男山の石清水八幡宮寺から取り払われました。泉坊の客殿の主室、次の間、玄関は丁寧に保存され、その後、松花堂庭園の現在の泉坊書院に組み込まれました。これら3つの建造物の部分は京都府登録文化財になっています。